

6月1日は「善意の日」です。この善意の日は、兵庫県が独自の取り組みとして昭和39年に定めました。県民一人ひとりの善意と誠意を結び集め育てることによって、社会の福祉を増進し、明るい豊かな郷土づくりを進めていきたいとの願いがこめられています。

歴史ある「善意の日」

毎年6月1日は、兵庫県内各地で「善意の日」の記念行事が催されます。宍粟市内でも様々な取り組みが行われています。旧山崎町時代からの中国自動車道側道付近の清掃

ボランティアセンターの前身は善意銀行

この「善意の日」にさきがけ、「善意銀行」は昭和37年に徳島県で生まれました。銀行のように寄付金品と人（現在でいうボランティア）を預かり、必要に応じて払い出し（配分・派遣）をするという、その独創的なアイデアと先駆的なシステムは大きな反響を呼び、またたく間に全国へ広がっていきました。兵庫県に

おける「善意銀行」の誕生もこの頃です。ボランティアという言葉がまだ市民権を得ていない時代でしたが、この善意銀行がボランティアセンターの前身となったのです。現在、人（ボランティア）の調整はボランティアセンターとボランティアコーディネーターが行うしくみへと発展し、善意銀行は金品の取り扱いを中心におこなっています。

この善意銀行の取り組みによる、いくつかの成果を挙げてみましょう。まず、地域の人たちに、自分たちが持っている善意を提供することが社会福祉への参加につながることを、そして自分たちの住む地域の福祉を押し進める力になることを知っていただきました。

また、ボランティア同士の連携やグループ化が促進され、ボランティア活動が活発になりました。

そして、社協が行う調査活



千種商店街を元氣に行進する子どもたち

（H6年善意の日）

「善意の日を 「ふくし」参加のチャンスに！」